

1.ご注意（必ずお守りください）

●表示内容を無視して誤った使い方をした場合に生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

危険	人が死にまたは重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容です。
警告	人が死にまたは重傷を負う可能性が想定される内容です。軽傷または物的損害が発生する頻度が高いことが想定される内容です。
注意	人が傷害を負ったり物的損害の発生が想定される内容です。

●お守りいただく内容の種類を次の表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です）

	禁止の行為を告げる絵表示です。
	「注意喚起」を促す内容があることを告げる絵表示です。
	行為を強制したり、指示したりする内容を告げる絵表示です。

危険

■爆発注意	正しい使用方法、取扱いマニュアル等をご参照ください。 爆発注意	■エンジン始動用以外に使用しない	補液や換油、引火等の危険があります。 爆発	■火気を近づけない	バッテリーから水素ガスが発生する原因となります。 火気禁止
■バッテリー液（希硫酸）の取り扱いに注意	失明ややけど、機器腐食などの原因となります。 硫酸注意	■目にバッテリー液が入った時の処置	直ちに多量の水で洗眼し、速やかに眼科医の治療を受けてください。	■バッテリー液が口に入るか、飲み込んだ時の処置	直ちに多量の水でうがいを行い、速やかに医師の治療を受けてください。
■取り扱いは保護メガネ、ゴム手袋を着用	バッテリー液により失明ややけどの原因となります。 メガネ着用	■こども禁止	こどもや取り扱い方法、危険を十分理解しないものに渡さないでください。	■ブースターケーブルの使用は正しく行う	接続手順を誤ると引火、発火の原因となります。（詳細はPG-7を参照ください。）

危険

■バッテリー液面は LOWER LEVEL（最低液面線）以下で使用しない	爆発の原因となります。	■充電器の使用は正しく行う	引火、発火の原因となります。	■密閉された場所で使用しない	バッテリーから水素ガスが発生する原因となります。
■ケーブルターミナルや取り付け金具は確実に固定する	取付けがゆるい状態や腐食した状態で使用するるとスパークにより引火、発火の原因となります。	■使用済みバッテリーの取り扱いに注意	電気エネルギーが逃げている状態に置かれたり、短絡して使用すると火花により引火、発火の原因となります。	■金属工具などで端子と端子を接続（ショート）させない	スパークにより引火、発火の原因となります。

警告

■バッテリーの交換は正しい順序で行う	順序を誤ると引火、発火の原因となります。（詳細はPG-8を参照ください。）	■交換・点検は車両のキーを抜きライト等のスイッチをオフ（切）にする	引火、発火の原因となります。	■ケーブルの取り付けは中と上を逆にしない	電子部品の破壊、発熱や火災の原因となります。（詳細はPG-9を参照ください。）
■液口栓の排気孔をふさがない	破裂の原因となります。（詳細はPG-4（3）バッテリー各部の名称）を参照ください。）	■充電時の注意	誤った充電方法により引火、発火の原因となります。（詳細はPG-9を参照ください。）	■バッテリー端子の改造禁止	液漏れや火災、引火、発火の原因となります。
■臭い、液漏れ、変形した状態で使用しない	破裂や液漏れによる車両損傷の原因となります。	■電気機器の直接接続禁止	発熱や発火の原因となります。	■静電気注意	乾いた布などで清掃したり帯電した身体で取り扱うと引火、発火の原因となります。
■精製水を入れない	液漏れによる車両損傷や火災の原因となります。	■皮膚・衣服にバッテリー液が付着した時の処置	直ちに多量の水で洗い流してください。やけど、衣服の損傷の原因となります。	■バッテリーを落としたり倒したりしない	液漏れにより、失明ややけど、けがの原因となります。

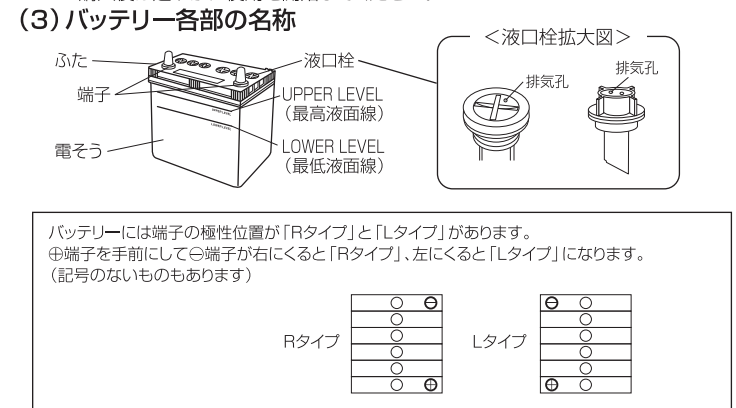
注意

■バッテリーは重量物 取り扱い注意	横倒し、落下などによるけがや液漏れの原因となります。	■バッテリー液の補充は 精製水を使用する	精製水に不純物が入ると臭い、発熱、発火、液漏れ、有毒ガス発生などの原因となります。	■使用温度範囲-15℃～60℃（短期使用は-30℃～75℃）で使用する	使用温度範囲以外では凍結や過熱により破損や変形の原因となります。
■とってを持って握らさない（とってがある場合）	バッテリーが落下し、けがの原因となります。	■取付け後とてを外す（とってがある場合）	外れると危険です。取付け後必ずとてを外してください。		

2.ご使用前に

(1) **バッテリーの用途**
本バッテリーの用途は、自動車のエンジン始動用です。エンジン始動用以外の用途（電源など）に使用しないでください。用途外使用の場合は該当機器の取扱説明書をお読みいただきと共に専用のバッテリーを使用するか、販売店もしくは弊社までお問い合わせください。取扱いを誤ると液漏れ、発熱、引火、発火の原因となります。

(2) **保管について**
・雨湿、粉塵、直射日光、高温・多湿を受けることがない、風通しのよい場所に保管し、横倒しの状態や落下しやすい場所には保管しないでください。
・こどもが触れることのない場所に保管してください。
・火気を近づけたり、ショートさせないでください。
・保管中にバッテリーは使用しなくても自然に放電し、使用できなくなることがあります。ご購入後は速やかに使用を開始してください。



3.バッテリーの交換方法

- バッテリーの交換は、車両等の取扱説明書に従って自己責任のもとで行ってください。
- バッテリーの交換時にラジオ、時計、カーナビなどの電装品及びコンピューターのメモリのバックアップが必要かどうかは車両等の取扱説明書で事前に確認してください。
- バッテリーは端子位置（極性Rタイプ、Lタイプ）の異なるものと取り替えないでください。電子部品の破損、焼損や火災の原因となります。

(1) 古いバッテリーの取り外し方

- ① エンジンを止め、キーを抜く。
※ライト等のスイッチはOFF（切）にしてください。
- ② 先に、アース側（一般的には○側）ケーブルを、次に○側の順でケーブルターミナルを外す。
※ケーブルターミナルを外す時は、まっすぐ上へ引き上げてください。
- ③ 取り付け金具を外し、バッテリーを両手でしっかりと持ち取り外す。
（ケーブルターミナルが汚れている場合はワイヤーブラシ、サンドペーパー等で清掃することをすすめします。）

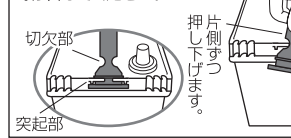
(2) 新しいバッテリーの取り付け方

- ① 取り付け前に、車両に合ったバッテリーであることを確認する。
※2個使用の場合は、同一型式のものを同時に取り替えてください。
- ② 新しいバッテリーを両手でしっかりと持って水平に設置し、取り付け金具ががたつかないようにしっかりと取り付け。
※取り付け時の○端子の位置を確認してください。
※とてがついている場合は、下図を参考にしてとてを取り外してください。
※取り付け金具を締めすぎるとバッテリーがわれたり、端子が変形することがあります。
- ③ 先にバッテリーの○端子に○ケーブルターミナルを、次に○端子に○ケーブルターミナルを取り付ける。
※端子カバーがついている車種は端子カバーを元通りに取り付けてください。
- ④ エンジンの始動前にケーブルターミナルを取り付け金具のゆるみがないか確認する。
※工具等をエンジンルームに置き忘れないようにしてください。

Bサイズ（B19、B24）の

とっての取り外し方

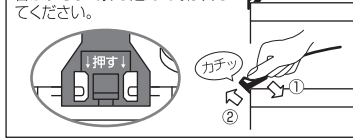
「とて」を押し下げて切欠部を突起部に合わせ「とて」を取り外してください。



Dサイズ（D23、D26、D31）の

とっての取り外し方

「とて」の「押す！」部分矢印方向の斜め上方から「カチ」と音がするまで押し込んで取り外してください。



補償条件

本製品は厳密な品質管理と検査の上、お届けしておりますが、万一ご購入後、補償期間内に正常なご使用状態で不具合が生じた場合は、ご購入店（通販売等含む）で点検・調査の上、下記の条件により補償させていただきます。

- 1.補償内容**
下記の「補償の対象」「補償期間」に従って、無償で「新品」と交換させていただきます。また、バッテリー交換以外の責はご容赦願います。
尚、補償適用により新品交換した場合、補償期間は当初ご購入いただいた時点からの補償期間が適用されます。
-
- 2.補償の対象（国内使用に限る）**
製造上あるいは材料上での不具合により使用不能となったもの（充電で回復する単なる放電状態は適用外です。）
- 3.補償期間**
補償期間はご購入日より起算した使用期間、または累計走行距離のいずれか早く到達した時とします（ご購入いただいた製品の補償期間については裏面をご確認ください）。
- 4.適用除外**
補償期間内であっても下記の場合は、補償は適用されません。
①補償書がない場合、または、必要事項が記入されていない場合
②異なるバッテリーあがりがなど、充電により回復するもの（但し充電により回復した場合の充電代は有料となる場合があります）
③以下の用途に使われた場合
a) 自動車のエンジン始動以外の目的（機器の電源など）で使用された場合
b) タクシー、ハイヤー、宅産車など運輸業に使用された場合
c) アイドリングストップ車に使用された場合
d) 教習車、緊急車両などの特殊用途自動車、農業機械、建設機械に使用された場合
e) 本バッテリーが適合しない車両に使用された場合
④天災、地震、火災、海難、動乱などによるバッテリーの破損ならびに故障
⑤使用上の簡便、手入れ不十分、過失または事故によって生じた故障と認められるもの
たとえば、(ア)電そう、あるいはふたの変形、破損したもの
(イ)電装品などの故障、欠陥により生じた事故
(ロ)バッテリーメーカーの指定する精製水以外のものを注入した場合
(ハ)ご購入後保管期間中、取付したまま放置した場合
(ニ)接続充電されたもの
(ホ)液量を適正に管理していなかった場合
(ヘ)交通事故による破損・故障・機密低下の場合
(ヘ)バッテリーを修理・改造した場合
(コ)過負荷となるアクセサリーを使用した場合
(ク)レースなどのスポーツ用途で使用された場合
(ケ)車両搭載のままで使用しならずコンピューターメモリー負荷（過電流）により放電した場合
(セ)ご購入後、保管中の自己放電によるもの
(ス)過剰水、雨水や洗車時の水の浸入により液あふれが生じた場合

- ⑥自動車自体の原因による場合
たとえば、レギュレーターの設定電圧が基準値を超えて過充電となった場合
⑦補償記載以外の車両に載せ替えた場合
⑧バッテリーの搭載位置、車両感測センサー設置、充電装置などに改造が加えられた車両で使用された場合
⑨不具合の車両がエンジンできない場合
⑩所有者が変更となった場合

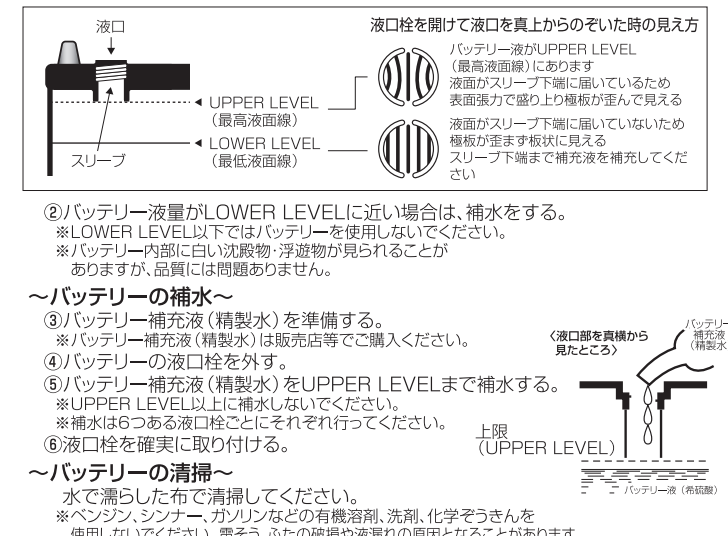
注意：ご購入店（通販売等含む）以外での補償はできませんのでご注意ください。

4.バッテリーの保守・点検方法

バッテリーの液量点検は日常点検項目として定められています。

バッテリー液量の点検と補水

～バッテリー液量の点検～
①（バッテリー）液量が（バッテリー）のUPPER LEVEL（最高液面線）とLOWER LEVEL（最低液面線）の間にあるか確認してください。
※液量を前面から点検できない場合は、下記を参考に確認してください。

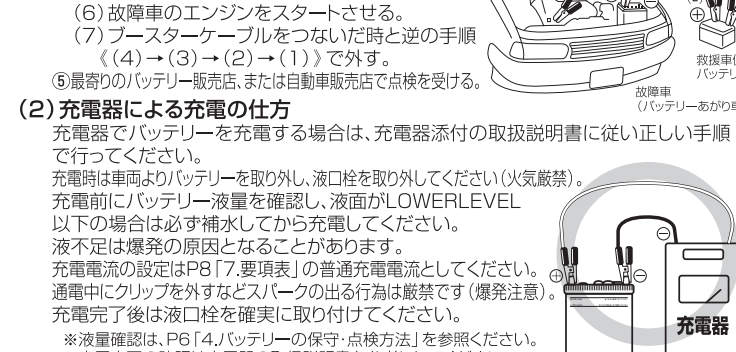


～取り付け金具・ケーブルターミナルの取り付け点検～
（バッテリー）取り付け金具、ケーブルターミナルにゆるみがないか確認してください。ゆるんでいる場合は、ナットを締め、確実に固定してください。

5.バッテリーがあがったときには

- (1) **ブースターケーブルによるエンジン始動**
①故障車（バッテリーが切の車）と救援車が同電圧（12Vか24V）同容量であることを確認する。
※12Vと24Vとが混ざります。
※バッテリーを2個使用している車種はその車両の取扱説明書に従ってください。
②故障車、救援車ともパーキングブレーキをかけ、エンジンキーをOFFにする。
③（バッテリー）液量を点検し、LOWER LEVEL以下の場合は補水する（詳細は4.項参照）。
④ブースターケーブルの接続（つなぎ方）手順
※接続時は中絶し、○端子にゆるみがないか確認してください。
(1)故障車（バッテリー）の○端子
(2)救援車（バッテリー）の○端子
(3)救援車（バッテリー）の○端子

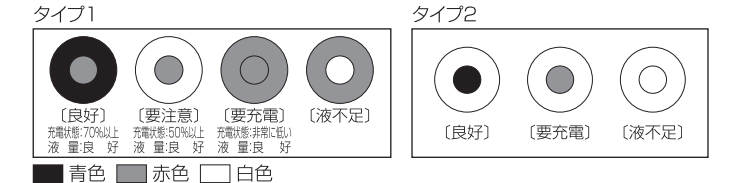
- (4)故障車のエンジン本体（フックなど）やフレーム
※(4)の接続は必ず（バッテリー）から離れた場所接続してください。
※ブースターケーブルを外れないようにしっかりと固定し、冷却ファンやベルトに巻き込まれないようにしてください。
(5)救援車のエンジンをスタートさせる。
回転を高める。
(6)故障車のエンジンをスタートさせる。
(7)ブースターケーブルをつなぎた時と逆の手順「(4)→(3)→(2)→(1)」で外す。
⑧暑々の（バッテリー）販売店、または自動車販売店で点検を受ける。



※液量確認は、PG「4.バッテリーの保守・点検方法」を参照ください。
充電完了の確認は充電器の取扱説明書を参照してください。
※充電時間の目安は、普通充電電流で放電程度より5～10時間です。充電完了は放電程度により異なります。充電完了の目安は、どの液口からも感電にガスが発生している状態です。※ガスが発生しない、充電されないなどご不明な点がある場合はご購入店または弊社にご相談ください。

6.インジケータ

インジケータの表示により、液量と充電状態（バッテリー液比重）をチェックできます（型式によってはインジケータのないものもあります）。インジケータは、代表として特定セルの状態を表示しています。他のセルの状態を確認することはできません。充電完了の目安は、どの液口からも感電にガスが発生している状態です。※ガスが発生しない、充電されないなどご不明な点がある場合はご購入店または弊社にご相談ください。



良好：バッテリー液比重および液量ともに良好です。そのままご使用いただけます。
注意：そのままご使用いただけます。ただし3年以上ご使用になられたバッテリーの場合や冬場など気温が低い場合、インジケータにしないくなるケースがありますので充電しつづらご使用になることをお勧めします。
要充電：バッテリー液比重が低下しています。PG「7.要項表」(2).充電器による充電の仕方」の項を参照の上、充電をしてください。良好状態に戻らない場合は交換をおすすめします。
液不足：バッテリー液量不足しています。PG「4.バッテリーの保守・点検方法～バッテリーの補水～」の項を参照の上、補水してください。
※液不足の場合は全て液量を点検してください。

7.要項表

型 式 名	5時間率 容量 (Ah)	普通充電 電流 (A)	型 式 名	5時間率 容量 (Ah)	普通充電 電流 (A)
38B19R (L)	28	2.8	75D23R (L)	52	5.2
40B19R (L)	28	2.8	80D23L		
44B19L	32	3.2	85D26R (L)	55	5.5
55B24R (L)	36	3.6	105D31R (L)	64	6.4
60B24R (L)					

※バッテリーの電圧はすべて12V、比容量1.280(20℃)です。

「故障かな?」と思ったら…（よくあるご質問、お問合せ）

- ①エンジンがかからない。
→放電している可能性がありますので充電をお願いします。PG「5-(2).充電器による充電の仕方」の項を参照してください。
注：放電は（バッテリー）の不具合、故障ではありませんが充電をしていてもエンジンがかからない場合はご購入店までご相談ください（補償書を表示してください）。
- ②（バッテリー）の液に白いものが混ざっていたり、液が白色、または茶色に濁っている。
→液が白く濁っている場合は製造工程上、液のp値に満たずても性能、寿命などには全く影響ありません。安心して使用ください。
→液が茶色く濁っている場合は過充電、放電気味使用によって極板が溶けだっている可能性があります。また、寿命に達しているものも同じような症状があります。早目の交換をおすすめします。
- ③車両を長期間使用しない間、バッテリーがあがってしまった。
→（バッテリー）を車両に搭載する時計、コンピューターのメモリーなどの消費電流（過電流）が常時流れ、車両によっては1ヶ月くらいで（バッテリー）あがりが発生します。充電していただき、点検で正常であれば補償交換対象となります。
- ④充電してもインジケータが良好を示さない。
→充電後、（バッテリー）液の濃度が均等になるまで、一時的に正常を示さないことがあります。電圧、比容量などが正常であればしばらくご使用いただくか正常になります。充電していただき、点検で正常であれば補償交換対象となります。
- ⑤エンジン始動はできるがバッテリーテスターで「要注意」と表示される。
→一時的に放電気味状態の場合、（バッテリー）テスターの判定で「要注意」などになる場合があります。充電していただき、点検で正常であれば補償交換対象となります。

<ご相談窓口>

株式会社 GSユアサ
（お客様相談室）0120-431-211（フリーダイヤル）
受付：月～金（年末年始、休日も除く）
9:00～12:00、13:00～17:00

※バッテリーの故障や寿命の判断など、ご相談内容によってはご購入店（通販売等含む）とご相談いただく場合があります。

GSユアサ バッテリー

バッテリー取扱説明書 補償書付

このたびは、「GSユアサ バッテリー」をご購入いただき、誠にありがとうございます。

バッテリーを正しくお取り扱いいただくため、バッテリーをご使用になる前や、点検の前に、本取扱説明書やバッテリー本体の注意表示をよくお読みください。本取扱説明書はお読みいただいた後もお手元に大切に保管してください。

尚、ご不明な点はご購入店または弊社にご相談ください。



説明書熟読

目次

1.ご注意	2.ご使用の前に	3.バッテリーの交換方法	4.バッテリーの保守・点検方法	5.バッテリーがあがったときには	6.インジケータ	7.要項表	○補償書
-------	----------	--------------	-----------------	------------------	----------	-------	------

「リサイクルの推進にご協力をお願いいたします」

ご不要になった使用済みバッテリーは放置したり、一般ゴミと一緒に捨てたりしないでください。新しいバッテリーをご購入の販売店に引き取りをご依頼ください。



GS YUASA

RGY-5X (SW)